

飛躍の時



県内の多くの企業で入社式を開いた。今年入社する社員は平成最後の新入社員。さらにこの日は新元号の発表日でもあり、各社のトップは節目の年となることを強調し、激しく変化する環境に対応しながら成長することへの期待を訓示に込めた。

(カッコ内は採用人数)

2019年度が始まった1日、県内の多くの企業が入社式を開いた。今年入社する社員は平成最後の新入社員。さらにこの日は新元号の発表日でもあり、各社のトップは節目の年となることを強調し、激しく変化する環境に対応しながら成長することへの期待を訓示に込めた。

自己研さんで
人間力高めて
十六銀行

村瀬幸雄頭取



社会人として大切にしたいことを話す。一つ目は情熱と好奇心を持ち続けること。情熱と好奇心を持つて仕事をすると、成長、感動、学習につながる。二つ目は良い習慣を身に付けること。凡事徹底で、平凡なことも積み重ねると大きな力となる。三つ目は自己研さんに積極的な姿勢で取り組むこと。変化の激しい時代に重要な人間力を高めてほしい。当行グループの未来を創造する人材に育つことを期待する。

(54人)

夢や希望持ち
実現に努力を
岐阜信用金庫

住田裕綱理事長



変化の速い時代を迎え、金融環境も、お客さまニーズも、企業の経営課題も、日々大きく変わっている。それらに即応し、課題解決に際する際には、あらゆる局面に問題意識を持ち、果敢にチャレンジすることが大切になっている。1日に発表された新元号の下、皆さんの夢や希望を大切に、その実現に向けて努力してほしい。皆さんの成長が、必ずや地域の発展につながるものと確信している。共に成長しよう。

(61人)

創立95周年に
新たな成長を
大垣西濃信用金庫

栗田順公理事長



新元号「令和」には新たな文化が生まれ育つとの意味が込められたという。今年創立95周年の節目を迎えており新たな成長サイクルが生まれ育てばと願う。意識してほしいのは「基本を守る」「準備を怠らない」「挑戦し続ける」。常に勉強し、挑戦し続けてもらいたい。信用金庫人として人間として、幅を広げてほしい。お客さま、地域社会、だいしんと絆を深めて地域社会に貢献できる職員へ成長することを期待する。

(30人)

影響を与える
社会人目指せ
イビデン

青木武志社長



社会人としてのスキルを磨き、三つの「力」を身につけてほしい。一つ目は企業人としての責任ある行動をすること。二つ目は社会人基礎力である「考え抜く力・実行力・チームワーク力」を養うこと。ぜひ組織に影響を与えるインフルエンサーになしてほしい。三つ目は失敗を恐れず何事にもチャレンジすること。幾多の荒波を乗り越えてきたイビデンスピリットを引き継ぎ、加速度的に変化する環境に合わせ、さらに進化させてほしい。

(145人)

人生懸けるに
値する仕事を
トカイ

小野木孝二社長



平成から新元号へと変わる節目の年に入社した皆さんを心から歓迎する。当社グループの事業領域の「ヘルスケアと環境」の分野は成長が期待される市場。「仕事ははれた者勝ち」という言葉があるが、当社には人を懸けるに値する仕事がある。周囲から信頼され、愛される社員になっていただきたい。必ず仕事に面白くなり、人生が楽しくなり、社会人として成長できる。皆さんの素晴らしい人生に心から期待し、応援する。

(153人)

理念心に刻み
充実の毎日を
KAIグループ

遠藤宏治社長



今年のスローガンは「基本を押さえる、革新を重ねる」から改善をする、進化するという意味の「守、破、離」。この理念を心に刻みながら頑張っていた。今年、日本にとってKAIグループにとって大きな節目の年。改元や選挙など、国際化の中で新しい時代が始まる。当社グループでは新しい人事制度など改革活動を進めている。皆さんには当社グループの一員となって活躍し、充実した毎日を送っていただきたい。

(26人)

県内企業トップ 新入社員に訓示

「脱・銀行」で
新しいことを
大垣共立銀行

土屋嶺頭取



新元号になる。(呼称を)「銀行」から社員へ変えた。6月には私も頭取を退任する。時代は刻々と変化し取り巻く環境はかなりのスピードで変化している。銀行業は低金利によりビジネスモデルが崩れ始めている。「脱・銀行」で一歩前に進んで新しいことを始めていかなければならない。キーワードは地域とのつながりであり、お客さまという資産を大事にしていくこと。答えを見つけていく。自分が何をすべきか考えてほしい。(185人)

創業100周年へ
「新しい風」に
東濃信用金庫

市原好二理事長



今年、新元号に変わる節目の年であり、東濃信用金庫も変革の年と位置付けている。今は自己資本比率も高く、安定した収益を上げているが、従来の延長線上では金庫の未来はない。2022年の創業100周年、さらにその先に向け、次の世代を担っていく存在として、「新しい風」にならなければならない。ストレスと上手に付き合え、どんなことがあっても3年は頑張る気持ちで、辛抱強く向上心を持って頑張ってください。(27人)

困難くじけず
正面から解決
西濃運輸

神谷正博社長



西濃運輸の使命は「輸送立国」。それは、物流を通じてお客さまに喜んでいただける最高のサービスを常に提供し、国家社会に貢献すること。私は入社3年目くらいにやめたと思うことがあったが、「会社を変える立場になろう」と考え方を換え社長になった。皆さんにも困難が待ち受けていると思うが、くじけず正面からぶつかって解決してほしい。新元号1年目の大変な年、たい年の入社。立派な社会人に育ってほしい。(254人)

人間社会どう
向き合うのか
バローHD

田代正美会長兼社長



学生時代は同じ年齢・学力レベルの中であり経験しなかっただろうが、さまざまな人間がいる社会では理不尽に直面することがある。「自分は正しいのに理解されない」と早々に諦めたいと思う時もあるだろう。今から考えてほしいのはどんな状況でも会社と向き合うか、上司や将来の部下とどう向き合うかだ。人間社会である限り、常に理不尽さが付きまとう。向き合い方を考える続けることに価値があり、自身の成長につながる。(561人)

自分を磨いて
果敢に挑戦を
太平洋工業

小川信也社長



自動車産業は100年に一度の大変革期にある。グループ全社員が共有する価値観である「PACIFIC VALUES」の「夢と挑戦」「信頼と感謝」にあるように夢を持ち果敢に挑戦してほしい。周囲の方々とお客さまとの和を大切に信頼を得て、感謝の心を抱き続けてほしい。太平洋の海原が皆さんを待っている。会社人生の中で自分を磨き、時(時間)理(理論)気(やる気)の「時理気(自己)」がある人財になってほしい。(96人)

自らを高める
努力継続して
レシップHD

杉本眞社長



2018年度は、首都圏のバス用ICカードシステムの新更新、新型運賃箱の導入を進め、全ての従業員が忙な中で頑張った年といえる。19年度も多忙な状況は続くが、売上高、利益は十分に期待できる。グループは、新しい事業分野としてバス運行管理システムなどを融合した「プラスワン」の新しい価値をお客さまに提供する戦略商品の創造」という大きなテーマに挑戦している。社員の皆さんは自らを高める努力を絶えず継続してほしい。(17人)